



ぱすふあいんだー

Pathfinder【調べ案内】

このパスファインダーは、レファレンスデスクのりぶたまが作成しました。

# 考古学

※【 】内は立正大学図書館における請求記号と所在を示す。

## 1.考古学とは

考古学 (archaeology) とは、人間の過去の文化の発展を、その遺物を通して研究する学問。広い意味での歴史学の一分野を占めるが、近年は、考古学を広い意味での人類学の一分野とする見方もある。特に記録のない時代については、考古学に研究される部分がほとんどといってもよい。また記録のある時代でも、その及ばない遺跡、遺物については、考古学によって研究がなされる。したがって考古学は歴史学 (文献史学) の補助学ではない。考古学の基本的な資料は人間の残した遺跡、遺物であるから、それを得るため、発掘調査が研究の中心となる。そのため、遺跡、遺物の年代を考えるとところから出発することになり、遺跡、遺物のどれが古く、どれが新しいかという、いわゆる相対年代の決定が基本になる。そのためには第1には物の出土層の上下関係 (地層が荒らされていなければ上層に比べて下層のほうが古い) があり、第2に物の形態の変化による新旧関係が考えられる。最近では科学的方法により実年代を知る方法も研究されている。

(「ブリタニカ・オンライン・ジャパン」より引用)

## 2.分類 (NDC9 版)

図書館の書架を調べる際は、次の分類を中心に探すとよい。

分類番号	分野
193.02	考古学 (聖書)
202.50	考古学 (歴史補助学)
210.025	考古学 (日本史) ※特定の地域に関するものは「日本地方区分」参照。 ※個々の遺跡、遺物に関するものは「時代区分」参照。

日本地方区分	
分類番号	分野
211	北海道地方
212	東北地方
213	関東地方
214	北陸地方
215	中部地方：東山・東海地方
216	近畿地方
217	中国地方
218	四国地方
219	九州地方

時代区分	
分類番号	分野
210.2～	原始 先史時代 旧石器時代 縄文時代 弥生時代 邪馬台国
210.3～	古代 大和時代 飛鳥時代 奈良時代 平安時代
210.4～	中世 鎌倉時代 南北朝時代 室町時代 戦国時代 安土桃山時代
210.5～	近世 江戸時代
210.6～	近代 明治時代 大正時代
210.7～	現代 昭和時代 (第二次世界大戦含む) 平成時代

## 3.辞典・事典

『日本考古学用語辞典』改訂新版 【210.025/Sa25 品川 2F 参考図書】

斎藤忠著, 学生社, 2004

考古学の基礎的な用語のほかに服飾、調度、日用品などについての用語が載っている。起源や沿革が重視され、歴史的な追及は原文で取り入れられている。

『現代考古学事典』縮刷版 【202.5/A 49 品川 2F 参考図書】

安斎正人編, 同成社, 2006

現代考古学の理解に必要な用語と概念を 100 項目解説している。



ぱすふあいんだー

Pathfinder【調べ案内】

このパスファインダーは、レファレンスデスクのりぶたまが作成しました。

## 『東アジア考古学辞典』 【220/N86 品川 2F 参考図書】

西谷正編, 東京堂, 2007

日本・中国をはじめ東アジア諸地域の基本となる諸項目 2,350 項目が収録されている。収録内容は、遺跡・遺物・用語・事項・人名など広範囲にわたり、収録項目は巻末の「分類項目一覧」から探すことができる。

## 4. 入門書

## 『よくわかる考古学』 【202.5/Ma76 品川 2F 学修支援 (史学) /品川 B1 図書】

松藤和人, 門田誠一編著, ミネルヴァ書房, 2010

考古学の目的、研究方法を始めとし、考古学という学問について時代を追って解説している。最新の研究成果を踏まえた内容になっているので、現在の考古学について知ることができる。入門者を対象にしているため、文章は読みやすい言葉で構成されている。

## 『はじめて学ぶ考古学』 【202.5/Sa75 品川 2F 学修支援 (史学) /品川 B1 図書】

佐々木憲一 [ほか] 著, 有斐閣, 2011

考古学がどのような学問かということから始まり、考古学の考え方と方法、考古学からみた日本の人類史を学ぶことができる 1 冊。執筆者は入門者に「考古学の楽しさ」を知ってもらいたいという願いを持っており、解説の言葉も分かりやすい。後半には、学びを深めたい人向けの読書案内も掲載されている。

## 『シリーズ「遺跡を学ぶ」』 【210.025/Sh88/1~125 品川 B1 図書】

新泉社, 2004~2018

旧石器時代、石器時代、縄文時代、弥生時代、古代の遺跡を取り上げたシリーズ。1 冊ごとにテーマが決まっており、カラー写真が豊富で簡潔に書かれているため読みやすい。

## 5. 雑誌

## 『立正考古』 【R-1/5 品川 B3 紀要 (新刊・目次は 3F 立正大学紀要コーナー)】

立正大学考古学研究会編

立正大学考古学研究会が年 1 回発行する機関誌。所属する研究者による論文が掲載されている。

## 『月刊考古学ジャーナル』 【210.05/13 品川 B3 雑誌 (新刊は 3F 開架雑誌コーナー)】

ニュー・サイエンス社編

戦後発展した考古学のすべてを網羅し、内容は論考、連載講座、随筆、トピックス、発掘報告、文献紹介、書評、博物館紹介など多岐にわたる。(月刊誌、毎月 30 日刊行、年 2 回増刊号あり)

## 『Museum』 【705/24 品川 B3 雑誌 (新刊は 3F 開架雑誌コーナー)】

東京国立博物館編

隔月 1 回、東京国立博物館から刊行される研究誌。考古学や歴史学の貴重な資料だけでなく、美術史や工芸史関係の資料も見ることができる。

## 6. インターネット (学会サイト等)

『日本考古学協会』 <http://archaeology.jp/>

一般社団法人日本考古学協会のウェブサイト。機関紙『日本考古学』の発行状況、講演会や講座の情報、考古学会の諸問題とその取り組みなどについて掲載している。

『考古学通信』 <http://kouko.so-hot.jp/arcinfo/>

考古学に関する最新ニュース、展示会、学会、文化財センター、考古学系求人などの情報を発信している。